

「児のそら寝（ちごのそらね）」 古語・現代語訳・品詞分解を解説

「児のそら寝」あらすじと現代語訳

「児のそら寝」は宇治拾遺物語（うじしゅうものがたり）に収録されているお話のひとつ。

宇治拾遺物語とは？

鎌倉時代の初めの頃（1212年～1221年）にできあがったとされる説話（せつわ）物語集。「説話」とは、古くから伝わってきた物語というイメージだよ。全部で197の話が収録されているんだ。

「児のそら寝」原文

これも今は昔、比叡の山に児（ちご）ありけり。僧たち、よひのつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、この児、心寄せに聞きけり。さりとて、し出（い）ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、片方（かたかた）に寄りて、寝たるよしにて、出（い）で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

この児、さだめておどろかさむずらむと待ちるたるに僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、いまひとこゑ呼ばれていらへむと、念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、ずちなくて、無期（むご）ののちに、「えい。」といらへたりければ、僧たち、笑ふこと限りなし。



「児のそら寝」現代語訳

これも今となってはもう昔のことだが、比叡山（の延暦寺）に児がいた。僧たちが、宵の手持ちぶさたに「さあ、ぼた餅を作ろう」と言ったのを、この児が期待して聞いた。とはいっても、作り上げるのを待って寝ないでいるのも、よくないと思って、片隅に寄って、寝ているふりをして、出来上がるのを待ったところ、（僧たちは）もう作り上げたようすで、騒ぎたてている。

この児が、（僧が自分を）きっと起こそうとするだろうと待ち続けていたところ僧が、「もしもし、お目覚めになってください。」と言うのを、うれしいとは思いますが、ただ一度で答えるのも、待っていたのかと（思われてしまう）と思って、もうひと声呼ばれて答えようと、がまんして寝ているうちに、「こら、起こし申し上げるな。幼い人は、寝入ってしまったことだよ。」と言う声がしたので、ああ、がっかりだと思って、もう一度起こしてくれと思いつつ寝て聞いていると、むしゃむしゃと、ただ食べる音があるので、どうしようもなく、長い時間が経ってから、「はい。」と返事をしたので、僧たちは笑うことが際限ない。

「児のそら寝」あらすじ（ざっくり口語訳）

昔々、比叡山の延暦寺に児がいた。

僧たちが夜中の退屈しのぎに「ぼた餅を作ろう」と言うと、児は自分も食べられると期待した。しかし、ぼた餅食べたさに寝ないでいるのも格好が悪いと思った児は、「ぼた餅ができればきっと起こしてくれるだろう」と寝たふりをする。

ぼた餅が出来上がり、僧が「もしもし、お目覚めになってください」と児に声をかけるが、一度で起きるのも、まるでぼた餅を待っていたかのようにやはり良くないので、もう一度呼ばれてから答えようと我慢する。すると、「幼い人（児のこと）は寝てしまったんだ。起こして差し上げるな」という声がする。がっかりした児は「もう一度起こしてくれ」と思いつつ寝たふりを続ける。しかし、むしゃむしゃと僧たちがぼた餅を食べる音が聞こえたので、どうしようもなくなった児は声をかけられてから長い時間経って「はい。」と返事をした。そんな児を見て、僧たちは笑い続けた。



「見のそら寝」品詞分解

これも今は昔、比叡の山に見(ちご)ありけり。僧たち、よひのつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、この見、心寄せに聞きけり。

| | |
|-------|------------------------|
| これ | 代名詞 |
| も | 係助詞 |
| 今 | 名詞 |
| は | 係助詞 |
| 昔 | 名詞 |
| 比叡 | 名詞 |
| の | 格助詞 |
| 山 | 名詞 |
| に | 格助詞 |
| 見 | 名詞 |
| あり | 動詞：ラ行変格活用「あり」の連用形 |
| けり | 助動詞：ラ行変格活用「けり(過去)」の終止形 |
| 僧たち | 名詞 |
| よひ | 名詞 |
| の | 格助詞 |
| つれづれ | 名詞 |
| に | 格助詞 |
| いざ | 感動詞 |
| かいもちひ | 名詞 |
| せ | 動詞：サ行変格活用「す」の未然形 |
| ん | 助動詞：四段活用「む(意志)」の終止形 |
| と | 格助詞 |
| いひ | 動詞：ハ行四段活用「いふ」の連用形 |
| ける | 助動詞：ラ行変格活用「けり(過去)」の連用形 |
| を | 格助詞 |
| こ | 代名詞 |
| の | 格助詞 |
| 見 | 名詞 |
| 心寄せ | 名詞 |
| に | 格助詞 |
| 聞き | 動詞：カ行四段活用「きく」の連用形 |
| けり | 助動詞：ラ行変格活用「けり(過去)」の終止形 |



さりとして、し出(い)ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、片方(かたかた)に寄りて、寝たるよしにて、出(い)で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

| | |
|--------|------------------------|
| さりとして | 接続詞 |
| し出ださ | 動詞：サ行四段活用「し出だす」の未然形 |
| ん | 助動詞：四段活用「む(婉曲)」の連体形 |
| を | 格助詞 |
| 待ち | 動詞：タ行四段活用「待つ」の連用形 |
| て | 接続助詞 |
| 寝 | 動詞：ナ行下二段活用「ぬ」の未然形 |
| ざら | 打ち消しの助動詞「ず」の未然形 |
| む | 助動詞：四段活用「む(仮定)」の連体形 |
| も | 係助詞 |
| わろかり | 形容詞：ク活用「わろし」の連用形 |
| な | 助動詞：ナ行変格活用「ぬ(強意)」の未然形 |
| む | 助動詞：四段活用「む(推量)」の終止形 |
| と | 格助詞 |
| 思ひ | 動詞：ハ行四段活用「おもふ」の連用形 |
| て | 接続助詞 |
| 片方 | 名詞 |
| に | 格助詞 |
| 寄り | 動詞：ラ行四段活用「寄る」の連用形 |
| て | 接続助詞 |
| 寝 | 動詞：ナ行下二段活用「ぬ」の連用形 |
| たる | 助動詞：ラ行変格活用「たり(存続)」の連体形 |
| よし | 名詞 |
| にて | 格助詞 |
| 出で来る | 動詞：カ行変格活用「出でく」の連体形 |
| を | 格助詞 |
| 待ち | 動詞：タ行四段活用「待つ」の連用形 |
| ける | 助動詞：ラ行変格活用「けり(過去)」の連体形 |
| に | 接続助詞 |
| すでに | 副詞 |
| し出だし | 動詞：サ行四段活用「し出だす」の連用形 |
| たる | 助動詞：ラ行変格活用「たり(完了)」の連体形 |
| さま | 名詞 |
| にて | 格助詞 |
| ひしめき合ひ | 動詞：ハ行四段活用「ひしめき合ふ」の連用形 |
| たり | 助動詞：ラ行変格活用「たり(存続)」の終止形 |



この児、さだめておどろかさむずらむと待ちみたるに僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、いまひとこゑ呼ばれていらへむと、念じて寝たるほどに、

| | |
|-------|-----------------------------|
| こ | 代名詞 |
| の | 格助詞 |
| 児 | 名詞 |
| さだめて | 副詞 |
| おどろかさ | 動詞：サ行四段活用「おどろかす」の未然形 |
| むず | 助動詞：サ行変格活用「むず（推量）」の終止形 |
| らむ | 助動詞：四段活用「らむ（現在の推量）」の終止形 |
| と | 格助詞 |
| 待ちみ | 動詞：ワ行上一段活用「待ちみる」の連用形 |
| たる | 助動詞：ラ行変格活用「たり（存続）」の連体形 |
| に | 接続助詞 |
| 僧 | 名詞 |
| の | 格助詞 |
| もの申し | 動詞：サ行四段活用「もの申す」の連用形※謙譲の本動詞 |
| さぶらは | 動詞：ハ行四段活用「さぶらふ」の未然形※丁寧の補助動詞 |
| む | 助動詞：四段活用「む（意志）」の終止形 |
| おどろか | 動詞：カ行四段活用「おどろく」の未然形 |
| せ | 助動詞：四段活用「す（尊敬）」の連用形※尊敬の助動詞 |
| たまへ | 動詞：ハ行四段活用「たまふ」の命令形※尊敬の補助動詞 |
| と | 格助詞 |
| 言ふ | 動詞：ハ行四段活用「言ふ」の連体形 |
| を | 格助詞 |
| うれし | 形容詞：シク活用「うれし」の終止形 |
| と | 格助詞 |
| は | 係助詞 |
| 思へ | 動詞：ハ行四段活用「思ふ」の已然形 |
| ども | 接続助詞 |
| ただ | 副詞 |
| 一度 | 名詞 |
| に | 格助詞 |
| いらへ | 動詞：ハ行下二段活用「いらふ」の未然形 |
| む | 助動詞：四段活用「む（仮定）」の連体形 |
| も | 係助詞 |
| 待ち | 動詞：タ行四段活用「待つ」の連用形 |



| | |
|------|------------------------|
| ける | 助動詞：ラ行変格活用「けり（過去）」の連体形 |
| か | 係助詞 |
| と | 格助詞 |
| も | 係助詞 |
| ぞ | 係助詞 |
| 思ふ | 動詞：ハ行四段活用「思ふ」の連体形 |
| と | 格助詞※「とて」で格助詞とする場合もある。 |
| て | 接続助詞 |
| いま | 名詞※副詞とする場合もある。 |
| ひとこゑ | 名詞 |
| 呼ば | 動詞：バ行四段活用「呼ぶ」の未然形 |
| れ | 助動詞：下二段活用「る（受け身）」の連用形 |
| て | 接続助詞 |
| いらへ | 動詞：ハ行下二段活用「いらふ」の未然形 |
| む | 助動詞：四段活用「む（仮定）」の終止形 |
| と | 格助詞 |
| 念じ | 動詞：サ行変格活用「念ず」の連用形 |
| て | 接続助詞 |
| 寝 | 動詞：ナ行下二段活用「ぬ」の連用形 |
| たる | 助動詞：ラ行変格活用「たり（存続）」の連体形 |
| ほど | 名詞 |
| に | 格助詞 |



「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと思ひ寝に聞けば、ひしひと、ただ食ひに食ふ音のしければ、ずちなくて、無期(むご)ののちに、「えい。」といらへたりければ、僧たち、笑ふこと限りなし。

| | |
|-------|------------------------------|
| や | 感動詞 |
| な | 副詞 |
| 起こし | 動詞：サ行四段活用「起こす」の連用形 |
| たてまつり | 動詞：ラ行四段活用「たてまつる」の連用形※謙譲の補助動詞 |
| そ | 終助詞 |
| をさなき | 形容詞：ク活用「をさなし」の連体形 |
| 人 | 名詞 |
| は | 係助詞 |
| 寝入り | 動詞：ラ行四段活用「寝入る」の連用形 |
| たまひ | 動詞：ハ行四段活用「たまふ」の連用形※尊敬の補助動詞 |
| に | 助動詞：ナ行変格活用「ぬ(完了)」の連用形 |
| けり | 助動詞：ラ行変格活用「けり(過去)」の終止形 |
| と | 格助詞 |
| 言ふ | 動詞：ハ行四段活用「言ふ」の連体形 |
| 声 | 名詞 |
| の | 格助詞 |
| し | 動詞：サ行変格活用「す」の連用形 |
| けれ | 助動詞：ラ行変格活用「けれ(過去)」の已然形 |
| ば | 接続助詞 |
| あな | 感動詞 |
| わびし | 形容詞：シク活用「わびし」の終止形 |
| と | 格助詞 |
| 思ひ | 動詞：ハ行四段活用「思ふ」の連用形 |
| て | 接続助詞 |
| いま | 名詞※副詞 |
| 一度 | 名詞 |
| 起こせ | 動詞：サ行四段活用「起こす」の命令形 |
| かし | 終助詞 |
| と | 格助詞 |
| 思ひ寝 | 名詞 |
| に | 格助詞 |
| 聞け | 動詞：カ行四段活用「聞く」の已然形 |
| ば | 接続助詞 |
| ひしひと | 副詞 |



| | |
|------|------------------------|
| ただ | 副詞 |
| 食ひ | 動詞：ハ行四段活用「食ふ」の連用形 |
| に | 格助詞 |
| 食ふ | 動詞：ハ行四段活用「食ふ」の連体形 |
| 音 | 名詞 |
| の | 格助詞 |
| し | 動詞：サ行変格活用「す」の連用形 |
| けれ | 助動詞：ラ行変格活用「けり（過去）」の已然形 |
| ば | 接続助詞 |
| ずちなく | 形容詞：ク活用「ずちなし」の連用形 |
| て | 接続助詞 |
| 無期 | 名詞 |
| の | 格助詞 |
| 後 | 名詞 |
| に | 格助詞 |
| えい | 感動詞 |
| と | 格助詞 |
| いらへ | 動詞：ハ行下二段活用「いらふ」の連用形 |
| たり | 助動詞：ラ行変格活用「たり（完了）」の連用形 |
| けれ | 助動詞：ラ行変格活用「けり（過去）」の已然形 |
| ば | 接続助詞 |
| 僧たち | 名詞 |
| 笑ふ | 動詞：ハ行四段活用「笑ふ」の連体形 |
| こと | 名詞 |
| 限りなし | 形容詞：ク活用「限りなし」の終止形 |

「児のそら寝」古語の意味

テストでは、「児のそら寝」の中で使われている古語の意味を聞かれることも多いので、それぞれよく確認しておこう。

特に、赤字のものは、言葉は同じなのに現在使われている意味と違うものなので、注意してね！

※古語にはいくつか違った意味を持つものがありますが、この表では「児のそら寝」で使われている意味を紹介しています。

| | |
|-------|---|
| 今は昔 | 今から考えると昔の話だが |
| 児（ちご） | 学問や行儀作法を学ぶために寺院に預けられた少年のこと。 |
| 宵（よひ） | 日が暮れてから夜中までの間 |
| つれづれ | 何もすることがなく手持ちぶさたなこと。 |
| かいもちひ | 搔い餅と書く。おはぎやぼた餅のような食べ物。 そばがきのような食べ物という説もある。 |
| 心寄せ | 期待する様子 |



| | |
|----------|--|
| さりとして | 「然りとして」と書く。だからといって・とはいえ |
| し出だす | 「為出だす」と書く。作り上げる・作り出す |
| わるし | よくない・好ましくない |
| 片方（かたかた） | 片隅のこと。 |
| よし | ふり・そぶり「寝たるよし」で「寝ているふり」になる。 |
| すでに | もはや・とくに・もう |
| ひしめく | 大勢が集まって騒ぎ立てる |
| さだめて | きっと・必ず |
| おどろかす | 目覚めさせる・起こす |
| さぶらはむ | 丁寧さを表すことば。「もの申しさぶらはむ」で、「もしもし、・・・ですよ」というイメージ。 |
| うれし | うれしい |
| いらふ | 「答ふ・応ふ」と書く。答える・返事をする |
| 念ず | がまんする |
| な・・・そ | ・・・しないでくれ |
| をさなし | 「幼し」と書く。まだ幼少である |
| あな | 「ああ」という感嘆をあらわすことば |
| わびし | 「詫びし」と書く。がっかりだ |
| ひしひし | ものを食べるときの音。むしゃむしゃ。 |
| ずちなく | どうしようもなく |
| 無期（おご） | 長い時間がたったことを表すことば |
| えい | 「はい」という返事をすることば |
| 限りなし | 果てしない・際限がない |

「児のそら寝」内容

僧たちは何を「し出だす」のか

「さりとして、し出ださむを待ちて寝ざらむも」という部分。
 これは「とは言っても、作り上げるのを待って寝ないのも」という意味だけど、誰が何を作り上げるのかな？ここより前に、「僧たち、宵のつれづれに、「いぎ、かいもちひせむ。」と言ひける」とあるね。つまり、「僧たち」が「かいもちひ（ぼた餅）」を作り上げるんだね。

児は何を「心寄せ」にしたのか

「心寄せ」は、期待する様子のこと。
 児は何を期待したのかな？
 僧たちが「いぎ、かいもちひせむ。」と言ったのを聞いて、児は期待したとあるね。
 つまり、「自分もぼた餅を食べられる」と思って期待しているんだね。



児はなぜ「そら寝」をしたのか

「そら寝」とは、寝たふりのこと。
なぜ児は寝たふりなんてしなくてはいけなかったのかな？

その前に「し出ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて」とあるね。
これは、「(僧たちが) ぼた餅を作り上げるのを待つて寝ないのも、良くないと思って」という意味。

つまり、ぼた餅が出来上がるのを待つて寝ないでいるなんて、食い意地がはっているみたいで良くないと思ったんだね。

だから、まるで「僕はぼた餅のことなんて気にしていませんよ」と言わんばかりに寝たふりをしていたというわけだね。

児が心の中で思った言葉

「児のそら寝」では、児が心の中で思った言葉が7か所登場するよ。
テストでも聞かれることが多いので、どこの部分か確認しておこう。

①し出ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむ

②さだめておどろかさむずらむ

③うれし

④ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふ

⑤いまひとこゑ呼ばれていらへむ

⑥あな、わびし

⑦いま一度起こせかし



児が返事をしなかった理由

児はもともと、ぼた餅を食べたいがために寝ないでいるのは格好が悪いと思って、寝たふりをしていたんだよね。

ぼた餅が出来上がれば、きっと僧たちが自分を起こしてくれると思っていたんだよね。

そして、思った通り、僧が声をかけて起こしてくれた。

でも、児はそれに返事をしなかったね。それはどうしてかな？

「ただ一度に、いらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて」とあるように、「たった一回声をかけられただけで返事をしてしまうと、まるで待っていたかのように思われてしまう」と思ったからだね。

僧たちが笑った理由

「一回声をかけられただけで起きたら恥ずかしい」と思った児が寝たふりを続けたので、僧たちは「児はもう寝入ってしまったから、起こすのはかわいそうだ」と思って声をかけるのをやめてしまったね。

がっかりした児は、「どうかもう一度起こしてくれ」と寝たふりを続けるんだけど、そんな中、僧たちがぼた餅をどんどん食べ始めてしまった。

「もう起こしてくれないし、このままではぼた餅が全部食べられて無くなってしまう！」と思った児は、とうとう「えい。」と返事をしたんだよね。

ではどうして僧たちが笑ったのかな？

僧たちが声をかけてすぐに返事をしたのならともかく、「無期ののち（長い時間が経ってから）」に児が返事をしたので、「なんだ、寝たふりをしていたのか」とバレてしまって、僧たちは笑い続けたんだね。

